

# 日本離婚・再婚家族と 子ども研究学会 第7回大会プログラム

The 7<sup>th</sup> Annual Conference Program of

the Japanese Association for Research on Children of Divorced Families and Stepfamilies

テーマ：家族のトランジションと子ども

2024年 10月26日(土)・27日(日)

近畿大学東大阪キャンパス & オンライン開催

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会

# 大会概要

## <大会メインテーマ及びシンポジウムのコンセプト等について>

大会メインテーマは、「家族のトランジションと子ども」です。離婚・再婚とその後の生活の中で、家族は、家族としての形態や構造だけではなく、関係性や価値観、習慣、心情その他のさまざまな変化にさらされます。その変化には、誰の視点で、どの角度からとらえるかによって、移行、変遷、過渡期など、さまざまな意味があります。そこで、今回の大会では、離婚・再婚などによる家族の移り変わりを、さまざまな視点からとらえるべく、あえてトランジション(transition)というカタカナ表記にしました。

青木聡氏は、心理療法を実践・研究する臨床心理学者として「離婚と子ども」という研究テーマ、とくに離婚後の親子交流の問題や支援について、精力的に取り組まれています。豊富な心理臨床のご経験を踏まえて、家族のトランジションと子どもについてお話しいただく予定です。

シンポジウムでは、離婚・再婚などの家族のトランジションの渦中、あるいはその後の子どもたちに焦点を当てます。子どもたちがトランジションの中で何を体験し、その体験からどのような影響を受けるのか、子どもたちが変化の荒波を乗り越えるために何が必要であるのか、トランジションの後子どもたちに必要なものは何かなど、具体的な問題について、シンポジストから話題提供をいただいた後に、基調講演者の青木聡氏も交えた意見交換により、理解を深めていきたいと考えています。

福丸由佳氏は、離婚を経験する親子への「FAIT」プログラムやペアレンティングプログラムのCAREによる親子支援の実践家でもあります。また丹羽有紀氏は、家裁調査官の経験を有する弁護士で、子ども手続代理人としての経験もお持ちです。異なる立場や場面で、それぞれに家族のトランジションを支えている専門家の方々からの講演をふまえて、全体討論を行う予定です。

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会  
企画委員会

## 第7回大会開催にあたってのごあいさつ

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会第7回大会を、2024年10月26日(土)～27日(日)、近畿大学東大阪キャンパスにて開催いたします。

今大会のテーマは、「家族のトランジションと子ども」です。離婚・再婚などによって家族の形態が移り変わる中で、子どもをめぐる環境も変化します。このような子どもの身の回りに起こる「移り変わり」をどのように捉え、子どもに必要な支援は何か、等を議論できればと考えております。

青木聡氏(大正大学)に「子による交流拒否の理解と支援」の題で基調講演を、また子どもに関わる問題に長く携われてこられた、福丸由佳氏(白梅学園大学)・丹羽有紀氏(弁護士法人興和法律事務所)にシンポジストをお願いいたしました。1日目の午前中と2日目には研究報告および会員企画ラウンドテーブルが予定されています。本学会のメンバーは、実に多様で、そこに本学会の特色があると思います。参加者の学際的な議論が、子どもをめぐる問題の解決に向けた一歩となるよう、実りある学会にしたいと存じます。

今回は、関東地方を離れ、初めて関西で本学会が開催されます。会場となります近畿大学東大阪キャンパスがある東大阪市は、「ものづくりのまち」と知られ、花園ラグビー場があることから「ラグビーのまち」としても知られています。人情味あふれる大阪の下町といった風情がいたるところでみられます。また、近畿大学といえば「近大マグロ」をはじめとする養殖魚などを思い浮かべる方もいるかと思いますが、あいにく学会開催期間中はそれらを提供する施設が閉まっております。皆様の期待を裏切ってしまう申し訳ありません。

今大会は、対面とオンラインを併用するハイブリッド型の開催を予定しております。遠方からご参加の方には、会場までのアクセスに不安を覚える方もいるかと思いますが、大会ホームページの「[会場までのアクセス](#)」のページに、関西の主要駅から会場までのアクセス方法をまとめております。大会実行委員会のメンバーで作りました。是非ご参考にいただければ幸いです。

皆様のご参加を心からお待ちしております。

日本離婚・再婚家族と子ども研究学会  
第7回大会実行委員長 松久 和彦(近畿大学)

# 目次

大会スケジュール .....	5
大会会場参加者へアクセスのご案内 .....	6
大会に参加される方へのご案内 .....	8
研究発表、ラウンドテーブル企画者の方へのご案内 .....	10
基調講演 .....	11
大会シンポジウム .....	12
会員企画ラウンドテーブル I .....	14
会員企画ラウンドテーブル II .....	15
研究発表 .....	16

# 大会スケジュール

## 大会1日目 10月26日(土)

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
<b>第1会場</b> C-101教室 Zoom		10:30-12:00 会員企画ラウンドテーブル I 親子(面会)交流の事例検討 -家族療法・解決志向アプローチ適用の可能性-		13:00-14:00 基調講演 (一般公開) 子による交流拒否の理解と支援 青木聡 氏	14:10-17:00 大会企画シンポジウム (一般公開) 家族のトランジション、そしてその先に向け -トラウマインフォームドケアの視点を踏まえて- 福丸由佳 氏			ふくらみのある解決を目指して -離婚事件の過程における子ども・ 父母のサポート- 丹羽有紀 氏	ディスカッション
C-102教室	← 休憩室 (ご自由にお使いください。お食事も可能です。) →								

## 大会2日目 10月27日(日)

	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00			
<b>第1会場</b> C-101教室 Zoom		10:30-12:00 会員企画ラウンドテーブル II-1 高葛藤 (high conflict) 離婚事例への支援・ 介入プログラムの適用可能性に関する検討②		13:30-14:10 年次総会	14:20-16:00/16:30 研究発表 1 離婚後の親プログラムの普及の課題-海外のプログラムとの比較検討-			家事調停の意義-何を調停するのか? 家族の成立と構造の仮説-	DV被害者である母親の裁判手続きにおける心理的体験-子をめぐる裁判に注目して-		
<b>第2会場</b> C-103教室 Zoom		会員企画ラウンドテーブル II-2 共同親権民法でおやこの関係性を育てていく! -自助にもなるアウトドア体験で親子も助け隊-			研究発表 2 幼少期の父母葛藤の認知及び親の離婚が青年の自尊感情、抑うつに及ぼす影響について				ノルウェーにおける離婚後の子どもの養育と家族のかたち	ステップファミリー形成過程における非血縁子との関係形成	子どもの心理的適応と父母・親子の関係性はどのように変化していくのか?
C-102教室	← 休憩室 (ご自由にお使いください。お食事も可能です。) →										

# 大会会場参加者へアクセスのご案内

## 会場

場所：近畿大学東大阪キャンパス Eキャンパス C館（法学部棟）1階

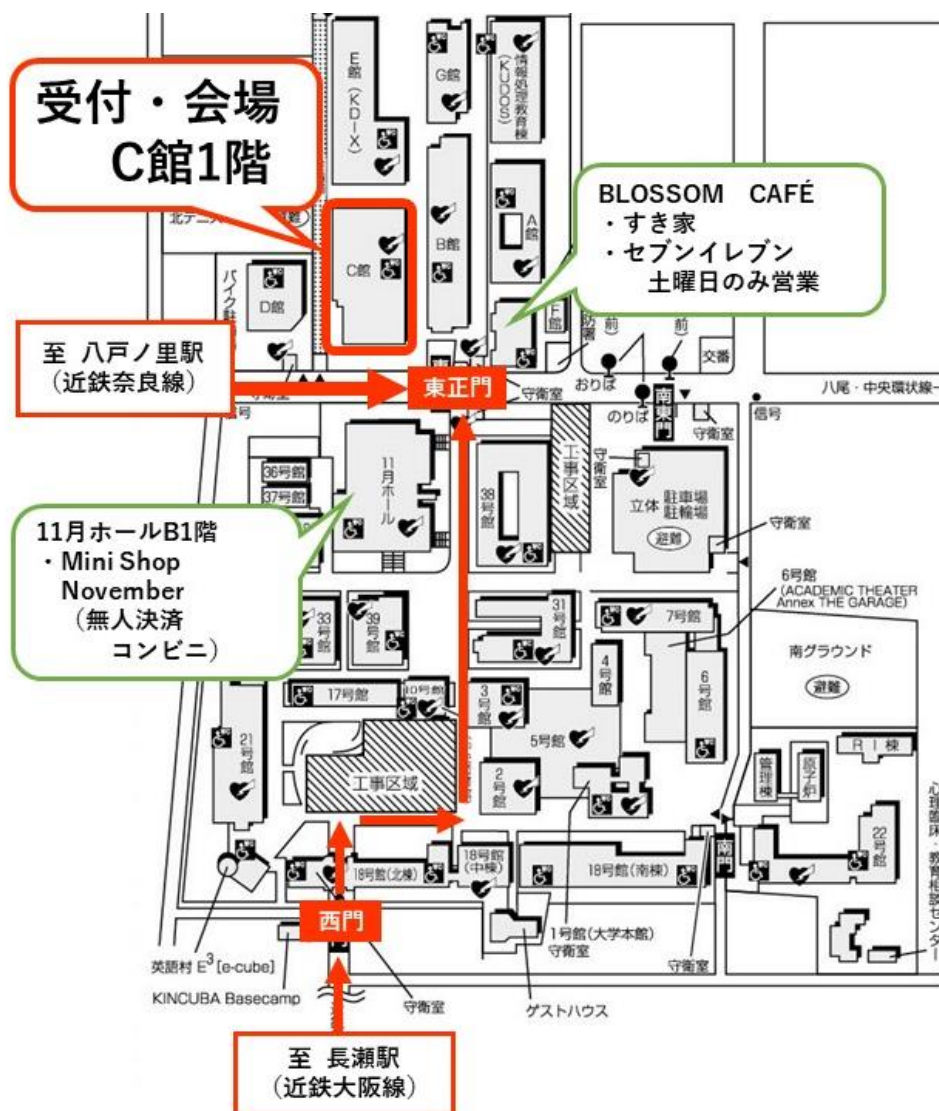
（〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3丁目4-1）

※キャンパスまでの交通アクセス方法は、大会ホームページの「会場までのアクセス」に  
詳細がございます。以下のURL または QR コードよりご確認ください。

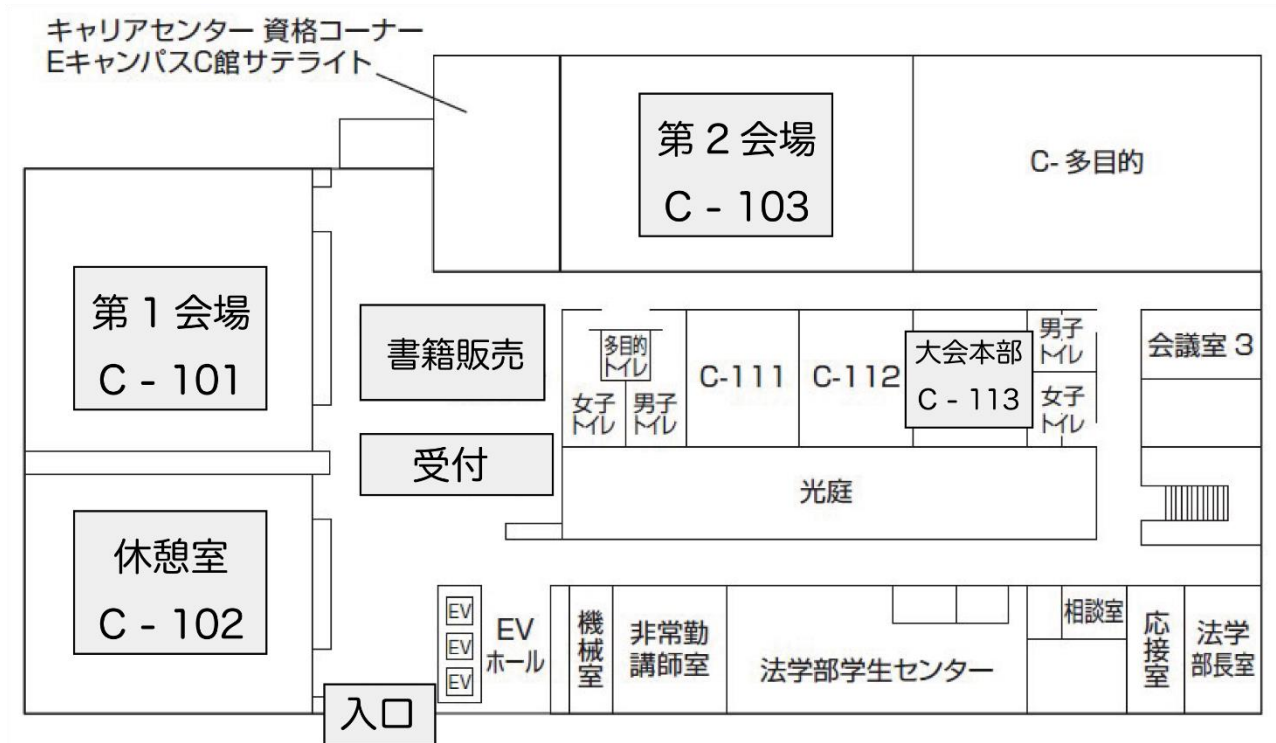
URL：<https://www.jarcds-taikai-kenshu.com/access>



## ・キャンパスマップ



・C館1階案内図



注意

- ・会場は東大阪キャンパスの中のC館です。他のキャンパスと間違えないよう、ご注意ください。
- ・八戸ノ里駅から東大阪キャンパスまでのバスは本数が少ないため、バスで来られる場合は、事前に時刻表をご確認ください。路線バス・直行バス（土曜日のみ運行）の時刻表は、大会ホームページの「[会場までのアクセス](#)」ページ内の「◆最寄り駅から近畿大学東大阪キャンパス・EキャンパスC館への交通アクセス」の中をご覧ください。
- ・C館1階の入口を入ると、前方に受付がございます。
- ・C-101 教室が第1会場、C-103 教室が第2会場です。休憩室としてC-102 教室を2日間とも終日開放いたしますので、昼食休憩などご自由にお使いください。論文の抜き刷り、ご所属団体のチラシやパンフレットなどを置いていただくことも可能です。各種情報交流スペースとしてご活用ください。
- ・会場では、近畿大学の学内インターネット（Wifi）が使用できます。接続先やパスワード等は、教室に掲示予定です。
- ・学会当日の昼食について、10月26日・27日の両日とも、お弁当の販売はいたしませんのでご注意ください。26日は、キャンパス内 BLOSSOM CAFÉ とコンビニ「Mini Shop November」が営業しています。27日は、キャンパス内のコンビニ「Mini Shop November」のみ営業しています。会場となるC館の近くには、ファミリーレストラン「ガスト」やラーメン屋「まこと屋」等がございます。また、大学西門から長瀬駅までの「大学通り」にはいくつか飲食店が営業しています。

# 大会に参加される方へのご案内

## 1. 開催形態 | 対面・Zoom ミーティング

対面とオンラインの併用で開催します。アクセスに必要な Zoom ミーティングの情報は、大会直前（10月23日頃）に、配信予定の大会参加者宛のメールにてご案内します。オンライン参加の皆様は、[オンライン参加者（聴講者）用マニュアル](#)をご参照ください。

## 2. 受付（会場参加の方）

受付窓口で受付を済ませ、参加証を受け取ってください。（大会期間中は、参加証をおつけください。）

## 3. 大会本部

場所：C-113 教室

※何かお困りの際はお越しく下さい。

## 4. 交流会（会員のみ）

開始時間：10月26日（土）大会1日目 18:00～（予定）

場所：Craftbeer Tavern（クラフトビア タヴァン）

〒577-0056 大阪府東大阪市長堂 2-2-19（布施駅北口から徒歩2分）

参加費：4,000円

※交流会への参加方法

大会への参加申込をされる際に、会員の方に対して、参加を予定されているかどうかを質問しています。交流会参加の最終的な確認については、大会へ参加される会員の皆様に対して、大会の約2週間前（10月13日（日）頃）に参加の有無を何うご連絡をさせていただきます。事前申込みが必要で、当日参加はできませんので、ご了承ください。参加費は当日受付にて現金でお支払いいただきます。お手数をおかけいたしますが、ご準備をお願いいたします。

## 5. 年次総会

日時 | 大会2日目（10月27日（日））13:30-14:10

場所 | C-101 教室および Zoom

学会に対する会員の皆さまの期待やご意見をお聞かせください。

## 6. 非会員の参加について（基調講演とシンポジウムのみ）

基調講演、シンポジウムのみ、非会員の一般の方は参加できます。なお、シンポジウム時の質疑は学会員のみとさせていただきます（オブザーバーとして質疑を聴かれてもかまいません）。

## 7. 参加にあたって厳守していただきたいこと

参加申し込み時に、すべての企画についての守秘義務および、録音・録画・写真撮影を行わないことに同意していただいておりますので、その旨ご了承ください。また、SNS等において、発表内容や質疑応答時の発言等を書き込むことはご遠慮ください。配布資料のアップロード等もお控えください。



## 8. 書籍販売ブースについて

受付の後方のスペースで書籍販売を行っております。また、大会プログラムの巻末に出版社様の広告を掲載させていただいております。ぜひ御覧ください。

## 9. お問い合わせ

- ・会場や大会全般に関するお問い合わせ 第7回大会事務局へ [2024office@jarcds.org](mailto:2024office@jarcds.org)
- ・入会等に関するお問い合わせ 学会事務局へ [info@jarcds.org](mailto:info@jarcds.org)

# 研究発表、ラウンドテーブル企画者の方へのご案内

## 1. 【必須】マニュアルについて

研究発表（口頭）を行う会員や会員企画ラウンドテーブル企画者は、事前に大会ホームページに掲載されている「[研究発表等を予定されている方へ](#)」のページをご一読ください。確認事項等が改訂される可能性がありますので、ホームページで最新バージョンをチェックしてください。

## 2. 【必須】発表時に画面共有するスライドや資料の提出について

研究発表（口頭）を行う会員や会員企画ラウンドテーブル企画者は、発表時に画面共有するスライド等を、10月25日（金）までにPPTまたはPDF形式で大会事務局（2024office@jarcds.org）宛のメール添付ファイルで提出してください。発表中にインターネット通信トラブル等で発表者が発表できなくなった場合に、大会事務局が代理でその資料を提示することがあります。トラブル等がなかった場合には資料は提示せず、他の目的で使用することはありません。

## 3. （任意）配布資料について

研究発表（口頭）を行う会員や会員企画ラウンドテーブル企画者で事前に配布したい資料等がある場合は、10月19日（土）までに、大会事務局（2024office@jarcds.org）に提出（添付ファイル送信）してください。大会に参加申込みをした人のみが資料をダウンロードできるように、クラウド上にアップロードします。大会実行委員会・企画委員会は、プリントや対面会場での配布などをしませんので、ご注意ください（発表者自身が会場等で配布するのは任意です）。

## 4. ご注意

- 資料の作成や当日の発表にあたって、第三者の権利や利益を侵害することがないように、著作権等に関して十分に配慮してください（学会におけるオンライン発表は自動公衆送信による再送信とみなされます）。
- オンライン上の発表の場合には、参加前にオンライン参加者（聴講者）マニュアルを熟読の上、発表するセッションの開始10分前までには入室して、音声・映像・画面共有のチェックを行ってください。発表中に不具合等が生じた場合、大会実行委員会において十分なサポートができない可能性がありますので、予めご承知おきください。
- 会場発表の場合には、発表データをUSBメモリ等のメディアに保存してご持参ください。会場にはWindows 11、Microsoft 365（Office）がインストールされたPCを準備しますので、データを移行してください（ハイブリッド開催のため、持ち込みPCで映写することはできません）。なお、USB端子はType-Aとなります。PCの操作はご自身でお願いします。
- 定刻になり次第、速やかにセッションを終了いただきますよう、ご協力をお願いします。

# 基調講演

10月26日 13:00-14:00 会場 C-101 教室+Zoom

## 「子による交流拒否の理解と支援」

講演者 | 青木 聡 (大正大学)  
司 会 | 野沢慎司 (明治学院大学)

この講演では、親子交流の問題（PCCP：Parent-Child Contact Problem）に焦点を当て、とくに子どもが親子交流を拒否する場合について、どのように理解し、どのように支援していけばよいのかについて、今回の大会テーマ「家族のトランジションと子ども」を踏まえ、実際の事例を通して皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

親子交流の問題を引き起こす要因は多岐に渡ります。PCCPは、絡み合う複数の要因を視野に入れた多面的な理解と、長期にわたる包括的な支援が求められる非常に難しい問題です。とりわけ、別居・離婚後に子どもが親子交流を拒否する場合、同居親と別居親のあいだで激しい争いが繰り返されることが多く、支援者も無自覚にその争いに巻き込まれ、争いの鎮静化に貢献するどころか、かえって争いを熾烈化させてしまうこともあります。

私たちは、子どもが親子交流を拒否するとき、その言葉を字義通りに受け取るのではなく、その言葉の奥に隠された子どもの心情を深く想像できているでしょうか。一方の親に対する子どもの発言がもう一方の親に対する発言と矛盾するとき、あるいは、ある時点の子どもの発言が別の時点ではまったく違う発言に変化するとき、どのように理解すべきでしょうか。

PCCPについては、弁護士や調停委員等が行う合意形成の支援や、親子交流支援団体等が行う親子交流の支援がよく知られていますが、この講演では、一般にはまだ馴染みが薄いと思われる心理療法的支援の事例を提示します。そして、家族療法家のHaleyが提唱した臨床概念である「いびつな三角形（Perverse Triangle）」を手掛かりに、PCCPについて検討します。「いびつな三角形」とは、子どもが両親の対立に巻き込まれ、一方の親と情緒的に融合し、もう一方の親を情緒的に遮断する三者関係を意味します。

「いびつな三角形」という視点が浮き彫りにするのは、表面的な言葉の奥に隠された子どもの心情の複雑さや、日本特有ともいえる「イエ」の問題（世代間連鎖）、親による自身の親子関係のふりかえり（原家族トラウマに対する未消化な感情の整理）の必要性です。他にもいくつかの重要な検討点を含んでいると思われる事例を選びました。当日の活発な議論を楽しみにしています。

# 大会シンポジウム

10月26日 14:10-17:00 会場 C-101 教室+Zoom

## 家族のトランジションと子ども

シンポジスト | 福丸由佳（白梅学園大学）「家族のトランジション、そしてその先に向けてートラウマインフォームドケアの視点を踏まえてー」

シンポジスト | 丹羽有紀（弁護士法人興和法律事務所）「ふくらみのある解決を目指してー離婚事件の過程における子ども・父母のサポートー」

司 会 | 渡邊祥子（にじいろ法律事務所）

### 【企画趣旨】

離婚・再婚とその後の生活の中で、家族は、家族としての形態や構造だけではなく、関係性や価値観、習慣、心情その他のさまざまな変化にさらされます。その変化には、誰の視点で、どの角度からとらえるかによって、移行、変遷、過渡期など、さまざまな意味があります。そこで、今回の大会では、離婚・再婚などによる家族の移り変わりを、さまざまな視点からとらえるべく、あえてトランジション(transition)というカタカナ表記にしました。

シンポジウムでは、離婚・再婚などの家族のトランジションの渦中、あるいはその後の子どもたちに焦点を当てます。子どもたちがトランジションの中で何を体験し、その体験からどのような影響を受けるのか、子どもたちが変化の荒波を乗り越えるために何が必要であるのか、トランジションの後の子どもたちに必要なものは何かなど、具体的な問題について、シンポジストから話題提供をいただいた後に、基調講演者の青木聡氏も交えた意見交換により、理解を深めていきたいと考えています。

福丸由佳氏は、離婚を経験する親子への「FAIT」プログラムやペアレンティングプログラムのCAREによる親子支援の実践家でもあります。また丹羽有紀氏は、家裁調査官の経験を有する弁護士で、子ども手続代理人としての経験もお持ちです。異なる立場や場面で、それぞれに家族のトランジションを支えている専門家の方々からの講演をふまえて、全体討論を行う予定です。

家族のトランジション、そしてその先に向けて  
—トラウマインフォームドケアの視点を踏まえて—

福丸由佳（白梅学園大学）

14:10～14:45

【報告要旨】

離婚という家族のトランジションはその後続くプロセスであり、その道筋も多様である。また、子どもにとっての親の離婚は逆境的体験の一つとされ、家族の機能不全等のリスクが累積されていくことで中長期的な影響を及ぼしうることも指摘されている。逆境的体験をはじめとする傷つきや喪失にも目を向け、適切な理解のもとに対応しようとするトラウマインフォームドケア（TIC）の視点は、同時にリソースやレジリエンスといった肯定的側面も大切にする。それゆえ、子どもにとっての保護的補償的体験の大切さや、その担い手は親だけでなく私たち大人の誰もが、ということも気づかせてくれる。また安心できる関係の中では、今を生きる両親と子どもの関係と共に、親自身の子ども時代という多世代を含めたエピソードに互いに耳を傾けあうことも生じやすいことを今の取り組みの中で感じている。離婚をとりまく状況もまさに移行期の今、多様な立場の方が集う本学会において、こうしたことを共に考えてみたい。

ふくらみのある解決を目指して

—離婚事件の過程における子ども・父母のサポート—

丹羽有紀（弁護士法人興和法律事務所）

14:45～15:20

【報告要旨】

弁護士として子どものいる夫婦の離婚事件に取り組む中で、父母の代理人としての活動はもちろん、子どもの手続代理人になったり、家裁の事件が終了しても引き続き面会交流支援のために関わったりする機会を得た。そういう経験を経て、子どもが離婚という大きな「家族のトランジション」を乗り越えていくためには、裁判所の離婚事件としての結論自体は同じだとしても、解決のための過程で、どれくらい子どもの思いが反映され、生活や親子関係等におけるサポートを得られたか、離婚後の面会交流の道筋がどれくらい丁寧に整えられたか、紛争渦中で大変な思いをしている父母がどれくらい元気を取り戻すことができたかが大切だと思う。そういうふくらみのある解決を目指すためには、離婚は「大きな」トランジションではあるが、いかに「小さな」部分で細やかに調整を積み上げていくかが重要だと考えるので、現行制度で可能であると思う工夫やあったらいいなと思う制度について私見を述べたい。

ディスカッション

15:30～17:00

# 会員企画ラウンドテーブル I

10月26日 10:30-12:00

会場 C-101 教室+Zoom

---

## 親子（面会）交流の事例検討

### —家族療法・解決志向アプローチ適用の可能性

企画者 | 村尾泰弘（立正大学）

司会、話題提供者 | 山崎祥子（秋田家庭裁判所）

話題提供者 | 古市理奈（びじっと・離婚と子ども問題支援センター）

話題提供者、指定討論者 | 村尾泰弘（立正大学）

古市より、親子交流支援のケースを報告し、事例の検討を行う。ケースはプライバシー保護の観点から、いくつかのケースを組み合わせた架空のケースとする。山崎より、家裁実務の中で感じられる親子（面会）交流の難しさや課題を報告し、村尾より、親子交流支援への家族療法・解決志向アプローチの適用試案を話題提供する。

# 会員企画ラウンドテーブルⅡ

10月27日 10:30-12:00

1 | 会場 C-101 教室 + Zoom

---

## 高葛藤 (high conflict) 離婚事例への支援・介入プログラムの適用可能性に関する検討②

企画者 | 曾山いづみ (神戸女子大学)

話題提供者 | 直原康光 (大阪大学)

話題提供者 | 小川洋子 (日本女子大学)

話題提供者 | 曾山いづみ (神戸女子大学)

討論者 | 福丸由佳 (白梅学園大学)

昨年度のラウンドテーブル：高葛藤離婚事例への支援・介入プログラムの適用可能性に関する検討①に続いての企画である。昨年度の議論を受け、今年度は高葛藤 (high conflict) 離婚事例の複雑さの内実や、支援・介入プログラムについて、海外の知見を紹介する。また子どもの視点から見た支援・介入の必要性についても話題提供を行う。そのうえで、日本における支援の方向性や今後の課題について議論する。

2 | 会場 C-103 教室 + Zoom

---

## 共同親権民法でおやこの関係性を育んでいく！

### ～自助にもなるアウトドア体験で親子も助け隊～

企画者 | 古賀礼子 (第一東京弁護士会)

話題提供者 | 糠盛創 (ツリタキ探検隊)

いわゆる共同親権を拡充する民法改正法が成立し、家族や親子のあり方が転換していくことが期待され、支援の充実も望まれています。離婚後の紛争化により親子断絶に見舞われていたケースで、適切に紛争解決及び親子交流現場でのサポートをすることで、親子の関係性が回復し、約1年で宿泊交流の実現・支援の卒業に成功した例があり、アウトドア体験サポートが親子関係の助けになりうる観点から、これからの親子交流支援のありかたをめぐる意見交換をいたします。

# 研究発表

10月27日 14:20–16:00/16:30

1 | 会場 C-101 教室+Zoom 司会：田高誠（広島家庭裁判所）

---

14:20–14:50

① 離婚後の親プログラムの普及の課題－海外のプログラムとの比較検討－

小田切紀子（東京国際大学）、青木聡（大正大学）

発表者らが開発した離婚後のオンライン親プログラムのアプリを普及させるための課題について、アメリカの養育態度の改善などに特化した治療的心理教育プログラム、およびシンガポールの家庭裁判所が開発した面会交流の日程調整アプリと比較して検討する。

14:50–15:20

② 家事調停の意義～何を調停するのか？ 家族の成立と構造の仮説

菅原浩明（さいたま家庭裁判所）

長年家事調停に携わってきたが、家族の本質も知らず、裁判所での研修もないと気づく。改めて考察し、人間関係が複数の「場」の多重構造であり、家族はその「場」の基本的単位であると考え。家族とは、人の持つ行動の適否を判断する基準から、場のルールが発生することで形成されることを論じる。

15:30–16:00

③ DV 被害者である母親の裁判手続きにおける心理的体験－子をめぐる裁判に着目して－

岩城尚子（東京弁護士会、大正大学大学院）

DV 被害者で子をめぐる裁判を体験した母親 3 名に対するナラティブインタビューと同分析をした。DV 被害者は裁判手続きの何に心理的負担を感じるのか。裁判手続きにおける被害者の理解とはどのようなものか。被害者はDV被害や、離婚、裁判手続きを人生にどのように位置づけライフストーリーとして振り返り語るのか。また、直接的面会交流の継続によるDV被害者の負担と、同面会の受容に至る心理的プロセスを紹介する。

2 | 会場 C-103 教室+Zoom 司会：山崎祥子（秋田家庭裁判所）

---

14:20–14:50

④ 幼少期の父母葛藤の認知及び親の離婚が青年の自尊感情、抑うつに及ぼす影響について

西野七海斗（琉球大学大学院）、草野智洋（琉球大学）

大学生を対象に幼少期の父母葛藤の認知の高低と親の離婚の有無、自尊感情、抑うつに関連について検討を行った。その結果、親の離婚を経験している群では経験していない群と異なり、父母葛藤が高かったと認知している者のほうが、低かったと認知している者よりも自尊感情が高かった。また、父母の葛藤の中で自身の助けとなったものについて「自分」と回答した者は、自尊感情が最も高い一方で、抑うつも最も高いことが示された。



14:50-15:20

- ⑤ ノルウェーにおける離婚後の子どもの養育と家族のかたち  
-あるステップファミリーへのインタビュー事例から-

野口康彦（茨城大学）、野沢慎司（明治学院大学）、青木聡（大正大学）

筆者らは、2023年8月に、科研費による調査の一環として、ノルウェーを訪問し、現地在住のあるステップファミリーに対して、インタビューを実施した。離婚経験のある60代の男性A氏と、A氏の息子のパートナーであった30代の女性B氏の2名である。ノルウェーにおける離婚の手続きの現状を踏まえつつ、離婚後の子どもの養育の現状と家族のかたちについて、インタビュー事例を通して報告と検討を行いたい。

15:30-16:00

- ⑥ ステップファミリー形成過程における非血縁子との関係形成

久保原大（東京都立大学）

ステップファミリー形成過程における非血縁子との関係形成のために何かしたか／しなかったかとその理由、そして、した場合の具体的内容、さらにその効果についての認識について検討した。また、非血縁子との関係形成におけるパートナーの協力の有無およびその理由を検討した。

16:00-16:30

- ⑦ 子どもの心理的適応と父母・親子の関係性はどのように変化していくのか？  
-離婚から4年未満の短期縦断データを用いた検討-

直原康光（大阪大学）、菅原ますみ（白百合女子大学（非会員））

離婚後の子どもの心理的適応と父母・親子の関係性の変化のプロセスを明らかにするため、調査開始時に離婚から2年未満の子どもと同居する母親（500名）の2年間（全9回）における追跡調査のデータを用いて、潜在クラス成長分析を行った。分析の結果、4クラスが抽出され、すべてのクラスで葛藤的なコペアレンティングが減少していた。一方、子どもの行動上の問題の変化については、クラスで差がみられた。

浅倉むつ子・二宮周平 責任編集

2023. 12 刊行

# ジェンダー法研究 第10号

定価: 本体4,000円(税別) ISBN: 9784797268508 約225頁

【目次】

- ◆ 1 LGBT理解増進法の成立と今後の課題—トランスジェンダーの  
尊厳保障を中心に—/三成美保
  - ★特集1 性犯罪に関する刑法改正
    - ◆ 2 強制から不同意へ—改正刑法の意義と課題—/島岡まな
    - ◆ 3 改正刑法を実務でどう活かしていくか/伊藤和子
    - ◆ 4 法制審議会に参加して—性被害当事者から見た刑法改正  
/山本 潤
    - ◆ 5 市民運動と刑法改正—被害当事者と市民社会と政治家の連  
携—/後藤弘子
    - ◆ 6 さらに被害者支援の必要性/雪田樹理
    - ◆ 7 “Yes means Yes”型不同意性交罪を導入することは何を意味  
するか—デンマークの経験について—/松澤 伸
  - ★特集2 DV防止法制の改革課題
    - ◆ 8 DV防止法2023年法改正の意義と課題/井上匡子
    - ◆ 9 断片化されたままの日本のドメスティック・バイオレンス  
(DV)被害者支援—女性支援法は現場をどう変えるのか—/北仲千里  
「逃げないDV」対応として加害者プログラムの導入を  
/松村歌子
    - ◆ 11 家庭裁判所を中核とした日本型DVコートを目指して  
/宮園久栄
    - ◆ 12 被害者支援としてのDV加害者プログラムはどうあるべきか  
—DV加害者プログラム参加者へのアンケート調査結果からの  
考察—/高井由起子
- 【立法・司法・行政の新動向】
- 〈1〉選択的夫婦別姓の実現を求めて—第二次別姓訴訟原告として  
/恩地いづみ
  - 〈2〉同性婚訴訟5つの地裁判決の地平/二宮周平
  - 〈3〉【翻訳】女性差別撤廃条約選択議定書に基づく女性差別撤廃委員  
会の見解(第74会期)—通報番号104/201—/浅倉むつ子・黒岩容子

## 法律婚って変じゃない?—結婚の法と哲学

法と哲学新書 2024. 7 刊行

山田八千子 編著

## 潮見佳男先生追悼論文集 家族法学の現在と未来

潮見佳男先生追悼論文集(家族法)刊行委員会 編

2024. 9 刊行

家族法学の  
現在と未来

## フランス民法の伝統と革新 I 総論と家族・債務

L. ルヴヌール/S. マゾー=ルヴヌール/M. ルヴヌール=アゼマール 著

水野紀子・大村敦志 監訳

2024. 7 刊行



信山社

http://www.shinzansha.co.jp

家事事件・少年事件の最新動向を追う唯一の判例雑誌

# 家庭の法と裁判 51

2024年8月刊

定価1,980円

FAMILY COURT JOURNAL

### 特集 家族法改正 — 共同親権・養育費・親子交流等

民法等の一部を改正する法律  
(家族法制の見直し)の概要

北村治樹 (法務省民事局参事官)

廣瀬智彦 (法務省民事局付)

親権等に関する新たな規律  
—離婚後の親権についての規律を中心に—

青竹美佳 (大阪大学大学院高等司法研究科教授)

養育費に関する新しい制度

原田直子 (弁護士)

親子交流等に関する新しい制度

池田清貴 (弁護士)

養子縁組制度・財産分与制度等  
に関する規律

佐野みゆき (弁護士)

その他、実務をフォローする裁判例・連載記事が充実!

※肩書は執筆当時。

日本加除出版

(価格は税込)

〒171-8516 東京都豊島区南長崎3丁目16番6号  
営業部 TEL(03)3953-5642 FAX(03)3953-2061  
www.kajo.co.jp X(旧Twitter):@nihonkajo

こちらから  
ご注文  
いただけます



石井まこと・所道彦・垣田裕介 編著

【2024年10月刊行】

# 社会政策入門

●これからの生活・労働・福祉  
「Basic Study Books」

●これからの生きる人に寄り添う社会政策を目指して——人の一生に沿って、生活・家族・労働を支える制度や施策、その機能や問題点などを知り、私たち自身が社会政策をよりよく発展、機能させることを目指した教科書。暮らしのなかの問題を「問う」ことから、安心で豊かな生活を送るために社会政策は何ができるのかを考える。 ●2000円

## I ライフコースと社会政策

- 第1章 私たちの生活と社会政策
- 第2章 子ども期の社会政策
- 第3章 進路選択期の社会政策
- 第4章 成人期・壮年期の社会政策
- 第5章 高齢期の社会政策

## II ライフイベントと社会政策

- 第6章 仕事をめぐる社会政策
- 第7章 結婚と子育て
- 第8章 住まい
- 第9章 保健医療・介護
- 第10章 生活困窮と社会政策

金川めぐみ 著 ★「令和5年度日本法政学会賞優秀賞」受賞

# ひとり親家庭はなぜ困窮するのか

●戦後福祉法制から権利保障実現を考える ●2000円

大澤真平 著 ★「2024年度日本社会福祉学会賞学術賞」受賞

# 子どもの「貧困の経験」

●構造の中のエージェンシーとライフチャンスの不平等 ●3000円

松本伊智朗 編著

# 子どもと家族の貧困

●学際的調査からみえてきたこと ●3740円

二宮周平・風間孝 編著

# 家族の変容と法制度の再構築

●ジェンダー／セクシュアリティ／子どもの視点から ●1600円

## 協賛企業（50音順）

信山社・日本加除出版・法律文化社

## 企画委員会

村尾泰弘（立正大学）・原田綾子（名古屋大学）

山崎祥子（秋田家庭裁判所）・田高 誠（神戸家庭裁判所）

野沢慎司（明治学院大学）・松久和彦（近畿大学）

渡邊祥子（にじいろ法律事務所）

## 日本離婚・再婚家族と子ども研究学会第7回大会実行委員会

実行委員長 松久和彦（近畿大学）

実行副委員長 直原康光（大阪大学）

実行委員 穴戸育世（近畿大学）

築城由佳（NPO 法人ハッピーシェアリング）

町田隆司（元家庭裁判所調査官）

2024年9月25日 第1版